

- 理事長挨拶、告知 1面
- 優秀論文賞を受賞して、告知、みんなでとったぞIF 2～3面
- 理事会ニュース(第1回臨時・第5回・第2回臨時)、胸部外科チーム医療最前線 4～5面
- 第49回日本心臓血管外科学会学術総会、第72回学術集会情報、ネクタイ販売、編集後記 6面

新年のご挨拶

日本胸部外科学会理事長 大北 裕



新年明けましておめでとうございます。

まず、最初に、第71回の学術集会が荒井裕国会長のもと、2018年10月3日から6日まで東京都で開催され、盛会裏に終了したことを報告申し上げます。随所に会長の創意・工夫が見て取れ、特にTechno-Academy、Surgical Colosseum、Gladiator Sessionなどの斬新な試みは大変好評でした。また、多くの同時通訳の方々を随所に配置して頂き、外国からのお客様と深い交流をいたしました。荒井会長はじめ、東京医科歯科大学の皆様は元より、会員諸兄に心から感謝いたします。また、本学術集会に対するアンケートも1,000人以上の方々からご返答頂き、今後の学術集会の運営に大いに役立たせて頂きます。本学術集会の出席者は3,516人を数え、過去最高を記録しました。

昨年度は5回の理事会、2回の臨時理事会を開催し、評議員会、学術総会などを通じて必要な定款、定款施行細則変更を行い、本会として大きな変革に着手しました。まず、従来のNPO法人からより自由度の高い社団法人に移行することを承認して頂きました。これにより定款の改定、収益事業などが簡便になりますが、一層の自律性を要求されます。今後5年以上かけて徐々にNPO法人から社団法人に移行する予定です。また、業務量の増加に則して理事数を20名から26名に増加して頂きました。

毎年3,000名以上の会員が集結する学術集会は本会運営の最重要事項と認識しています。昨年、学術集会

においては3分野会長制の導入を承認して頂き、2020年からはすべて選挙制で選出することになります。こうすることにより、心臓、呼吸器、食道各分野会員のより積極的な学術集会参加が望めます。しかしながら、昨年の評議員会の採決として100名の会員の反対票があったことを重視し、拙速とならないよう留意して事を進めさせて頂きます。現在、学術集会委員会で学術集会のあり方、すなわち運営方法、プログラム編成などにおいて、本会事務局、学術集会委員会のより強力な参画を企図しています。

平成30年度(7月31日まで)の本会の財政は収入37,479万円、経常費用37,763万円で、284万円の赤字会計となりましたが、正味財産変動は無く、健全でありました。教育事業では本年も、呼吸器外科・心臓血管外科サマースクール、PGC、医療安全講習会を開催予定です。従来からのJATS fellowship、研究助成(JATS Research Project Award)、JATS Academyなども継続して行う予定です。昨年度からの試みとしてAsian traveling fellowshipも募集いたします。

機関誌GTCSは、会員諸氏のご協力のお蔭で2019年度にIFが付与されることが決定しています。これに伴い、GTCSへの投稿数も増加しており、よりqualityの高い学術誌として発展が期待されます。臨時増刊として“Controversies in Thoracic Aortic Aneurysm Surgery”が2019年1月に発刊予定で、引き続き、“Non-small cell lung cancer”増刊号を刊行予定です。また、日本医科大学の新田隆

教授を中心に編成されていた日本胸部外科学会70周年記念誌が完成し、近日中に会員諸氏にお届けできる予定です。

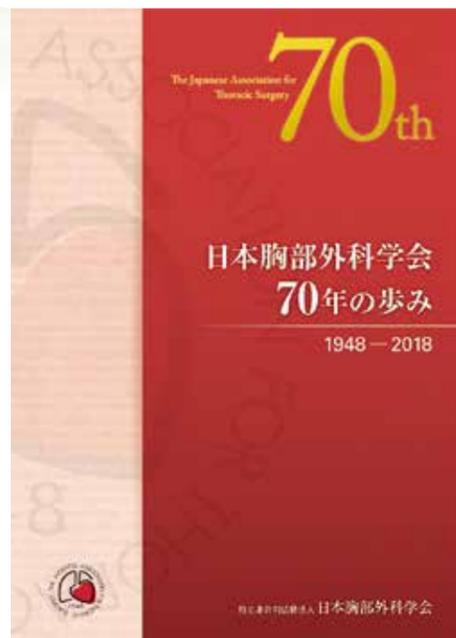
新専門医制度制定における日本外科学会専門医制度は2018年4月に発足しましたが、二階部分のサブスペシャルティ構成については未知数です。今後、各分野のプログラムの整備、外科専門医取得に必要な症例数の不均衡も解消したいと考えています。

Annual reportについて2016年版が漸く刊行予定です。NCDとの連携で手間取りましたが、今後、2017年、2018年版は遅滞なく発行できると考えています。

国際委員会の取り組みとして、次世代会員の海外への短期留学支援“JATS fellowship”、“JATS/AATS Foundation fellowship”を一昨年から開始し、2年間に14名の会員に留学して頂き、その成果を学術集会、JATS news letterにて発表して頂きました。本年度も同様に募集をいたしますので、詳細はHPの募集要項を供覧のうえ、奮って御応募ください。

“地方会のあり方委員会”では、本会と地方会の連携をより緊密にする方策として会費収納の一本化を承認していただきました。一昨年度から、各地方会の発表について、心臓血管外科、呼吸器外科専門医制度申請・更新条件にクレジットを付けていただくことになりました。最終目標としては、本会と地方会の完全一体化ですが、各地方会独特の特色を生かすよう、円滑に進めてゆきたいと思っております。

事務検討事項として、2019年に



日本胸部外科学会 70 周年記念誌 表紙

現在、事務局が存在するテラル後楽ビルとの賃貸契約が更新を迎え、より一層激しい条件での契約を迫られそうです。時を同じくして、日本外科学会が現在の貿易センタービルの改築に伴い、移転を検討されています。本会としては基盤学会である日本外科学会と同じ場所に居を構えることにより、外科学会とより緊密な交流が得られ、経費節約にもつながると考えています。

2019年10月30日から第72回学術集会が京都で京都大学伊達洋至会長のもとで開催され、また、AATSとのjoint symposium開催も計画されています。プログラム案を拝見しますとauthenticな学術集会が古都で開催されることが覗かれ、大いに期待される所です。

これにて新年の挨拶とさせていただきます。本年も会員諸兄のご奮闘を願ってやみません。

今後の日本胸部外科学会

1 NPO 法人からより自由度の高い一般社団法人に移行

2 学術集会は3分野会長制を導入(2020年からは選挙制で選出予定)

機関誌 GTCS は 2019 年度に IF が付与されることが決定

3 臨時増刊号として“Controversies in Thoracic Aortic Aneurysm Surgery”, “Non-small cell lung cancer”を発行予定

皆で行こう地方会!

4 本会と地方会の連携をより緊密にする方策として会費収納を一本化
地方会発表は心臓血管外科・呼吸器外科専門医制度の新規申請、参加は更新申請のクレジットとしてカウントできるようになりました。(詳細 HP 参照)

2018年度 日本胸部外科学会 優秀論文賞

受賞者の声
優秀論文賞を受賞して



hANP投与によるPPAR γ の誘導効果を見ることができました。今後確認すべき点や発展すべき点も残されておりますが、一つの足掛かりになり得るものと考えております。

本研究および論文作成に際しご指導頂きました齋木佳克教授ならびに医局員の皆様、一から教えて頂いた分子病理学教室の先生方に心より感謝申し上げます。思いもかけずこのような賞を頂くことができ、嬉しさはもちろん、私も実験動物も報われた思いであり、同時に身が引き締まる思いでもあります。手術・臨床に邁進する時期ではありますが、今回の受賞を励みに今後も常にリサーチマインドを持って科学的活動に携わっていきたいと考えております。

心臓血管外科

鈴木 智之 (東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野)

Atrial natriuretic peptide induces peroxisome proliferator activated receptor γ during cardiac ischemia-reperfusion in swine heart

この度は名誉ある日本胸部外科学会優秀論文賞を受賞させて頂き、誠に光栄に存じます。選考頂きました会誌編集委員会、理事会の先生方に心より感謝申し上げます。

peroxisome proliferator activated receptor γ (PPAR γ)は近年注目されている核内受容体の一つであり、心筋虚血再灌流障害に対する抑制効果も指摘されている分子ですが、本研究ではatrial

natriuretic peptide (ANP)との関連について着目しました。心筋虚血再灌流

障害・心筋保護はある意味古典的テーマであります。再手術や複雑手術、心移植といった症例が後を絶たない近年においてやはり重要な予後規定因子になりうるかと考えております。本邦の日常診療で主に心不全治療に頻用されているhANPは心筋そのものに対する保護効果も示唆されており、既知の作用経路が存在するものの、PPAR γ を介した反応があるので

はないかという仮説を検証しています。ブタ心筋虚血再灌流モデルを作成し、hANPの投与の有無による比較検討を行いました。ブタの心臓は虚血に弱く何頭も連続で失ったり、評価方法の確立や分子の評価の手技の習得にもある程度の時間を要し、苦労は絶えませんでした。



鈴木 智之
所属：東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野
卒業大学：東北大学
経歴：
2004年 東北大学医学部卒業
2004年 気仙沼市立病院 臨床研修
2008年 国立病院機構水戸医療センター 心臓血管外科
2009年 榊原記念病院 心臓血管外科 専修医
2012年 東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科 大学院生
2016年 仙台厚生病院 心臓血管外科 医長
2018年 東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科 助教
趣味：釣り、野球観戦
好きな言葉：叩け、さらば開かれん(聖書)

心臓血管外科

清家 愛幹 (国立循環器病研究センター 血管外科)

Clinical outcomes of aortic repair in young adult patients with ACTA2 mutations

この度は名誉ある胸部外科学会優秀論文賞を頂き、この上なく光栄に存じます。査読して頂いた先生方、並びに選考に関わられた先生方にこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。

本論文では、家族性胸部大動脈瘤・解離の原因の一つであるACTA2 (Actin, alpha-2, smooth muscle, aorta) 遺伝子変異の臨床像を解析しました。この疾患は、Marfan症候群を代表とする症候性遺伝性大動脈疾患とは異なり、身体的特徴を有さない事が多い非症候性遺伝性大動

脈疾患であり、大動脈疾患発症後にACTA2遺伝子異常を診断される

症例も多い疾患群です。今回の対象患者にMarfan症候群の診断基準である改訂Ghent基準を満たす症例はなく、家族歴がない症例では遺伝的背景を疑う事は困難でありました。その一方で、組織学的には、cystic medial necrosisを高率に認め、大動脈壁の脆弱性に伴い再手術率も高い遺伝性大動脈疾患としての特性を持つことを提示させて頂きました。

本研究の症例数は限定的でありましたが、疾患特性を示唆する事は出来たと考えております。しかしながら、遺伝性大

動脈疾患の更なる臨床研究の推進には、疾患群の対象患者数が限られていることから、レジストリー多施設研究が望まれ、今後本邦におけるACTA2症例に関する多施設臨床研究にも関与できればと考えております。

また、最後になりますが、湊谷謙司教

授をはじめ多数の諸先生の御指導を頂きながら研究結果を論文化することができ、名誉ある賞まで頂く事が出来たことを感謝致します。それとともに、今後も日本胸部外科学会を通じて、医療に貢献できるよう一層努力してまいります。



清家 愛幹
所属：国立循環器病研究センター 血管外科
卒業大学：香川医科大学
経歴：
2002年 香川医科大学 医学部卒業
2002年 香川医科大学付属病院 第1外科
2003年 町田市民病院 心臓血管外科
2003年 愛媛県立中央病院 心臓血管外科
2006年 国立循環器病センター 心臓血管外科 レジデント
2009年 NTT 東日本 関東病院 心臓血管外科
2011年 イムス葛飾ハートセンター 心臓血管外科
2013年 東京医科大学病院 心臓血管外科 助教
2014年 国立循環器病研究センター 血管外科
趣味：旅行、ドライブ
好きな言葉：初心忘るべからず

呼吸器外科

永島 宗晃 (群馬大学医学部附属病院 呼吸器外科)

Analysis of variation in bronchovascular pattern of the right middle and lower lobes of the lung using three-dimensional CT angiography and bronchography

この度は名誉ある胸部外科学会優秀論文賞に選考いただき誠にありがとうございます。査読者の先生方、並びに選考に関わられた先生方に心より御礼申し上げます。

本研究は近年実臨床において身近に使用することが可能となった3DCTを用いて、肺の詳細な区域解剖を解析したものです。さらにFigureには実際の3DCT画像を使用することにより、実臨床にすぐに導入できるものとして報告させていただきました。「解剖は普遍的なものであり、全ての

手術の基礎である」の考えのもと、本研究を2012年の大学赴任時より上司である

清水公裕先生と、いわば2人3脚で進めて参りました。その結果、昨年度の清水先生の受賞(Analysis of the variation pattern in right upper pulmonary veins and establishment of simplified vein models for anatomical segmentectomy)に引き続き、2年連続で本賞受賞ということは、本研究が呼吸器外科領域において区域切除術の重要性が増した現在の流れに沿ったものであると確信するものとなりました。非常に光栄なことであると同

時に身の引き締まる思いでいっぱいです。

肺の区域解剖は、1940年代から70年代にかけてBoydenやAppleton、本邦では山下らが解剖学的手法を用いて解析、報告され、その結果が現在に至るまで手術書などで参照されております。非常に労を要する作業であったと思いますが、その正確性は驚愕に値するものであり、改めて先人の偉大さに気づくこととなり

ました。テクノロジーの発達した現代に生きるものとしては、一層の努力をしなければいけないと感じました。

最後になりますが、本研究を進めて行くにあたりご指導、ご助言をいただいた先生方に感謝致しますと共に、今後も同研究を継続、発展させていき、呼吸器外科手術における一助となるデータを発信できるよう一層精進していきたく存じます。



永島 宗晃
所属施設：群馬大学医学部附属病院 呼吸器外科
卒業大学：群馬大学医学部
経歴：
2002年 群馬大学卒業
2002年 群馬大学第2外科 入局
2004年 国立病院機構 西群馬病院 呼吸器外科
2009年 前橋赤十字病院 呼吸器外科
2012年 群馬大学医学部 臓器病態外科学 助教
2017年 国立病院機構 渋川医療センター 呼吸器外科
趣味：スポーツ観戦
好きな言葉：変化はコントロールできない。できることは、その先頭に立つことだけである。(ピーター・ドラッカー)

呼吸器外科

伊藤 宏之 (神奈川県立がんセンター呼吸器外科部長)

Does the histologic predominance of pathological stage IA lung adenocarcinoma influence the extent of resection?

この度は名誉ある胸部外科学会優秀論文賞に選考いただき誠にありがとうございました。査読者の先生方、並びに選考に関わられた諸先生方に心より御礼申し上げます。

この論文は、神奈川県立がんセンター呼吸器外科と広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科との共同研究として行いました。統一データベースを用いて、2011年に提唱された肺腺癌の亜型(IASLC/ATS/ERS adenocarcinoma classification) 報告をもとに、288例の病

理病期IA期完全切除症例を解析したものです。肺腺癌は組織亜型ごとに、low grade

(Adenocarcinoma in situ, Minimally invasive adenocarcinoma)、Intermediate (Lepidic, Acinar and Papillary predominant)、High grade (Solid, Micropapillary)に分け検討したところ、gradeが高いものほど無再発生存期間は短くなる結果でした。Intermediateに分類されたLepidic predominantに再発はありませんでしたので、この一群は他のAcinar, Papillaryとは一線を画して扱った方が良いと思われます。切除範囲別に検討すると、

Intermediate、High gradeともに差異はなく、必ずしも肺葉切除が有利に働くわけではないと結論づけられました。しかしHigh gradeでは臨床病期と術後病期の一致率が半分以下であり、これらの一群を術前に診断を付けることは難しいですが、縮小切除を検討するには注意が必要と思われました。

最近では臨床面の多忙に加え会議も多く、論文を書く機会が少なくなっていました。今回の受賞は、自分のモチベーションを再度高めてくれる良い機会になりました。さらに後進への指導の原動力ともさせていただきます。この場をお借りし、お世話になった皆様に感謝致します。



伊藤 宏之
所属：神奈川県立がんセンター呼吸器外科部長
卒業大学：1993年 横浜市立大学医学部卒業
経歴：
1993年5月 横浜市立大学付属病院臨床研修医
1995年5月 横浜市立大学医学部第一外科教室入室(現 外科治療学教室)
1995年12月 横浜南共済病院外科
1996年12月 国立国際医療センター 呼吸器外科シニアレジデント
1998年6月 平塚共済病院外科
1999年6月 神奈川県立がんセンター呼吸器外科
2002年6月 横浜市立大学市民総合医療センター 総合外科
2005年4月 神奈川県立がんセンター呼吸器外科 医長
2013年4月 神奈川県立がんセンター呼吸器外科 部長
趣味：テニス、ゴルフ、スキー、自転車
好きな言葉：努力は自らを助ける

食道外科

杉村 啓二郎 (大阪国際がんセンター 消化器外科)

Is ¹⁸F-FDG-PET useful for predicting R0 resection after induction therapy for initially unresectable locally advanced esophageal carcinoma?

このたびは胸部外科学会優秀論文賞に選考いただき誠にありがとうございました。査読者の先生方、並びに選考に関わられた先生方に心より御礼申し上げます。

局所進行食道癌の治療は、以前は根治的放射線療法がおこなわれておりましたが、近年化学療法、化学放射線療法、手術治療を組み合わせた集学的治療が行われる機会が増えております。以前は、

治療前の診断において気管や大動脈浸潤があるかどうか重要でありました。しかし、集学的治療が行われる近年

では、治療前診断よりも化学療法や化学放射線療法をおこなったのちに手術にてR0切除ができるかどうかの術前評価が重要になってきていると考えます。

今回、本論文でFDG-PETがその術前評価に有効であることを発表させていただきました。これまでR0切除ができるかどうかは各施設で評価基準がさまざまでしたが、本論文がその判断の一助になれ

ば幸いです。本論文をもとに、どのような治療を行えばR0切除率が増え、生存率が改善するかを探索する前向き試験を施行しており、結果がでるのは数年後にはなりますが本学会で発表させていただきたいと思っております。

本研究および論文作成にあたり、多大

なご指導を賜りました矢野雅彦先生、宮田博志先生ならびにそのほか消化器外科の先生方に心より感謝申し上げます。今後も、日本の食道外科に貢献できるように努力を継続して精進していきたいと存じます。



杉村 啓二郎
所属施設：大阪国際がんセンター 消化器外科
卒業大学：大阪大学卒業
経歴：
2002年 大阪大学卒業
2002年 大阪大学高度救命救急センター
2003年 静岡医療センター 外科
2005年 大阪府立急性期総合医療センター 救急診療科
2007年 りんくう総合医療センター 外科
2009年 大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科 大学院生
趣味：ドライブ
好きな言葉：置かれた場所で咲きなさい



JATS Academy 2018.10 OPEN!

50本にも上る手術ビデオライブラリーや過去のPGCテキストアーカイブなど、若手・中堅の先生方に役立つ情報がいっぱい!



会員ページにログインしてご覧ください! ▶



JATS Academy

会員ページ

各種コンテンツ



手術ビデオライブラリー



研究支援

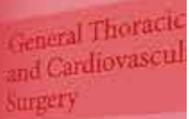


PGCテキストアーカイブ



関連学会日程

GTCSの取り組み



みんなでとったぞ インパクトファクター (IF)

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会のOfficial Journal、日本心臓血管外科学会のAffiliated Journalです

http://www.jpats.org/

日本胸部外科学会
Webサイトに
お勧め論文を
掲載しています!

1. 各種委員会報告及び協議事項

(1) 総合将来計画委員会

1) 法人格の変更

『結論』本理事会としては一般社団法人化を進めることで承認された。学術集形態変更の件も同時に進んでいるので、全体のプランニング(事務局対応の変化・新しい人材が必要で今までの流れを変える)を日本外科学会を参考に学術集委員会委員長、財務委員長及び副会長の3名で具体案を練る。

2) 学術集形態変更

第3回理事会において、『分野別会長制度』の導入が承認され、評議員会及び総会に諮る予定である。導入の具体的方法、課題として、現行制度から新制度への移行(3名の選出方法・集金方法・プログラム一貫性の保持)及び事務局機能の強化(学術集統括する能力)が考えられる。以下の日程案が提案され、日程的に可能かどうか検討した以下の結論となった。

『結論』分野別会長制度の導入はロードマップの現行制度下を2020年・2021年、移行期を2022



年から数年間(期限を決めない)行い、その後期間を決めずに学会事務局及び学術集委員会が強化されたら完成期へと移行する。なお、社団法人化と学術集形態変更の2件は、正会員からパブリックコメントを求める。

(2) 学術集委員会

今後、socialなプログラムは学術集委員会で決めていく方針とする。外国人名誉会員推薦基準は翌年の推定予定者の締切日を8月31日とし、推薦があれば審議にかかる。

学術集アンケート調査は、従来のものに加え荒井会長独自のフィードバック項目を追加し、第一日目が終了してから入力できる

ようにする。伊達副会長から海外渡航費上限金額が提示され、第72回から本会がオーソライズしたものとして承認された。学会中に開催される委員会等の経費の支払い方法を確認した。UMINの演題登録システム終了に伴う対応として、本会及び地方会で共通で利用できるシステムを検討する。第71回学術集のプログラムとして、心臓外科のAdvancedコースを閉会式後の2時間で実施することが報告された。

(3) 地方会のあり方委員会

昨年の評議員会では、本会会員は所属する地域の地方会会員とする、地方会会費は本会会費と同時に一括徴収する、の2点がランドデザイ

ンとして認められている。会計の一本化は難しく、地方会は別団体で、本会会員は地方会に所属する、会員がイコールであることが大事で、それが一体化である。統一基準で別会計にて事業を推進することで進んでいる。また、関西胸部外科学会事務局の本会事務局内移転の申し出があった。

結論として、2021年度地方会補助事業開始を目的に会費は2,000円の値上げ、関西事務局移転は事務局員の補充を前提に承認された。

(4) 処遇改善委員会

NP・PA制度の件も入れたアンケートを全会員を対象に行う。

(5) 専門医制度委員会

本会から呼吸器外科専門医合同委員会に依頼している本会地方会参加を専門医更新のクレジットとする件の回答があったことが報告された。2018年4月1日以降の日本胸部外科学会地方会から対象となり、呼吸器外科専門医更新時には参加証コピーの提出が必須となる。

日本胸部外科学会 第5回理事会 2018年8月30日(木) 13:00 ~ 17:00

1. 各種委員会報告及び協議事項

(1) 理事会

審議事項

1) フィブリノゲンの適用拡大に向けて

上記のコンセンサスについて説明の場が設けられたが、本会としては8年前にも厚生労働大臣に要望書を提出しており、今後もサポートしていくことを確認した。

報告事項

1) インスピリス大動脈RESIRIA大動脈弁保険収載について

保険収載されたことが報告された。

2) 第84回日本循環器学会学術集プログラム検討参画委員推薦について

本会からは荻野理事を推薦した。

3) 日本外科学会学術集への演題応募における倫理的手続きに関する指針について

Q&Aを掲載する要望を回答として提出した。今後は、倫理・安全管理委員会が対応する。

4) 事務所移転

今後、学会としての対応を決定する。

(2) 総合将来計画委員会

審議事項

1) 法人格の変更

適切な事業の遂行と収益事業を可能とするため、「NPO法人を将来的に解散するとともに、一般社団法人を設立すること及び今後の手続きと工程も前回理事会で提案されたことを再確認した。

2) 学術集形態変更

分野別会長制度を導入する件について、今後の手続きと工程に関して検討した。なお、会長は3年前、分野別会長は2年前の評議員会にて決定する。年度ごとの選挙日程は以下の通りである。2018年 次期副会長(2021年秋会長)選挙で1人選出、分野別会長及び次期分野別会長の条項を細則に新設、次期分野別会長2名(2020年秋分野別会長)の承認(理事会推薦)

2019年 次期副会長(2022年秋会長)選挙1人選出、3名選挙の細則を設定・議決、次期分野別会長(2021年秋分野別会長)2名の承認

2020年 3名とも評議員会から選出、次期副会長(2023年秋会長)の選出、次期分野別会長(2022年秋分野別会長)2名の選出

報告事項

正会員の学術集の参加費を少なくとも3年間は5,000円割引くことにより、正会員の会費

負担を軽減し、且つ学術集への参加を促すこととした。

(3) 専門医制度委員会

1) 日本専門医機構

新体制となり、概略が説明された。専攻医採用のシーリングの考え方(外科は対象外であるが、東京の専攻医の採用数から5%を目途に調整)、医療法と医師法が改正されており、厚生労働省が医師の配置に影響を及ぼす権限ができたことなどが報告された。

2) サブスぺ会議

先日行われたサブスぺ会議の報告があり、日本外科学会へサブスぺ整備基準を提出し、日本外科学会理事会で承認後、日本専門医機構への提出予定となっている。

(4) 選挙管理委員会

本年度は2年ごとの評議員改選の年度に相当したため、定款施行細則に則り評議員の選任を実施した。今回からWeb選挙制へ変更となったが、投票率が従来の郵便投票と比較して下がったので、次回以降はアナウンス活動を積極的に行うこととする。評議員立候補資格の投稿歴については本委員会で検討した結果、学会参加に重きを置く改訂案を提出し、理事会でも承認された。昨年度からの懸案事項であった評議員選挙日程を現行よりも3ヵ月後ろ倒しにする件が承認された。ただし、満65歳の規定日は現行通り、選挙の年の4月1日とする。

(5) 推薦評議員候補者選考委員会

選挙評議員の欠員8名を含む18名を推薦評議員とし選出した。なお、欠員はその地区からの選出とは限らず、全国的な見地から選出した。

(6) 会誌編集委員会

新規投稿数240編(Original 103編、Case 112編など)、Accept数101編(Original 36編、Case 40編など)、Accept率(Original 48%、Case 36.4%)、Acceptまでの平均所要期間(著者による改訂期間を含まない)は、Accept 69日、rejectは27日 AcceptからOnline Firstまでの期間(Original 7日、Case 11日)、現在までの掲載数88編(Original 34編、Case 26編など)、日本呼吸器外科学会にはESTSのブースにGTCS学会誌等を置く等の協力いただいたこと、GTCS Special Issueの進捗等が報告された。また、和文誌オンラインジャーナルシステムの改修(各号一括ダウンロード)が費用(約160万円)も含めて承認された。

(7) 学術委員会

2015年学術調査集計状況(Annual Reportが完成オンラインファーストで公開済み)、2016年学術調査集計(近々にGTCSに掲載予定)、2017年学術調査集計(心臓血管領域のコンバーターをチェック中、食道領域もNCDデータから集計を行うべくコンバーターを作成中)、日本呼吸器外科学会及び日本気管食道科学会との共同研究「降下性壊死性縦隔炎に関する全国調査」を施行中、プレスリリースを2016年調査が確定した時点で予定していることなどが報告された。

(8) 学術集委員会

審議事項

1) 2019年度外国人名誉会員推薦

伊達副会長からG Alexander Patterson 教授の推薦があり承認された。

2) AATS及びEACTSからの招聘演者について 今後、その年のAATSおよびEACTSの会長を招聘することが提案され、第72回(伊達副会長)からから実施する。

報告事項

1) 学術集運営会社選考方法と学会担当者原則として会長一任とし、要望によりコンペを行うことが承認されている。学会事務局が強化されれば別となるため、参考として、日本呼吸器学会事務局が紹介された。

2) 学術集アンケート

第70回学術集(札幌)アンケートは、回答率20%以上と例年より高く、また、高評価であった。また、本アンケートは学会終了後学術集参加者だけに限定されていたが、学会不参加の会員も意見が入力できるようにすることが承認されている。

3) 開催費用分担ルール

学術集会時の本会及び他団体が開催する委員会等の開催費用分担のルールを決定した。

4) 学術集マニュアル外国人招聘講演者の海外渡航費

外国人招聘講演者の接遇費(交通費)の妥当な上限額を設定した。

5) プログラム構成の検討

会長采配の割合を決め、学会のActivityは委員会にてsocialなシンポ、合同シンポ等を5つ程検討する。外科のクレジットとなるプログラム・処遇改善・男女共同参画・教育等があげられた。

6) UMINオンライン学術集演題登録システム 日本医師会や日本医学会から運用継続の要望書の提出があり、有償化した形態で平成31年度も継続運用を行うことが報告された。本会も継続利用申請することを承認した。

7) 第70回学術集

第70回学術集報告がなされた。

8) 第71回学術集

学術集日程表、採択数と採択率、Featured Abstracts Session、総合分野セッション(合同シンポ、男女共同参画、専門医制度委員会企画、チーム医療推進委員会セッション)、ホームカミングセッション、日本専門医機構単位申請、事前参加登録について報告された。なお、外科専門医共通講習及び領域講習の受講管理方法はQRコードによる出席確認を行い、それに伴う費用が報告された。

(9) 財務委員会

審議事項

1) 社団法人化コンサルタント費用

専門家とも相談しながら作業を進めるため、コンサルタント費用として、約160万円を計上することが承認された。

2) 2018年度日本胸部外科学会活動計算書 経常収益は会費収入11,500万円、事業収益25,671万円、経常収益計37,479万円、経常費用は事業費計31,373万円、管理費計6,389万円、経常費計37,763万円、当期形状増減額はマイナス284万円、次期繰越正味財産額が58,953万円となったことが報告され、承認された。

3) 2019年度日本胸部外科学会活動予算書 経常収益計39,817万円、経常費用計39,804万円、当期経常増減額はプラス12万円、次期繰越正味財産額は58,230円を計上し、承認された。

(10) 倫理・安全管理委員会

日本低侵襲心臓手術学会からの医療安全講習会で報告された内容の一部転載許可依頼を承認、日本医学会連合からのゲノム編集技術を用いた医学研究に関するアンケートに回答、学術集情報の全会員一斉送信メールとメールアドレスの管理、第71回定期学術集での医療安全講習会企画、会員処分(2名)、医療事故調査外部委員派遣(3名)、日本医療安全調査機構の個別調査部会委員は本委員会委員を中心に名簿を更新、ライブ手術申請(2件)について報告された。

(11) 診療問題委員会

平成32年度保険改訂に向けた活動を行っている。外保連要望項目技術・新設項目として、PT-INR自己測定器加算、冠状動脈バイパス用自動吻合器(加算)、左心耳切除・閉鎖術、胸腔鏡下左心耳閉鎖術、技術・改正項目として同一手術野における複数手術の加算の改正、Kコードと外保連試案のすり合わせ及び次世代医療機器・再生医療等製品評価指標/医療機器開発ガイドライン(手引き)アンケートに回答したことが報告された。また、日本外科感染症学会から手術縫合創に対する予防的NPWTの適用についての提

胸部外科チーム医療最前線 NPが活躍する施設を追う！

東京ベイ・浦安市川医療センター 心臓血管外科

施設情報

千葉県浦安市当島 3-4-32
心臓血管外科医数：6名
病床数：344床
手術症例数：468例

診療看護師の所属：診療科
診療看護師のインセンティブ：有
診療看護師の勤務シフト：日勤のみ
診療看護師の手術参加：有 (TAVIのみ)

心臓血管外科医師

チームにおける診療看護師の役割と真価

当院ではいち早く診療看護師（以下NP）を採用しており、全員が看護部ではなく診療部に所属しています。心臓血管外科には2013年10月の立ち上げ時より専属のNPがおり、2018年11月現在2名のNPが6名の医師とともに活躍しています。

当科NPの仕事は多岐にわたっています。胸腔穿刺や手術の助手など手技的な仕事に注目が集まりがちなNPですが、私個人がより高く評価している点は、総合内科できっちりトレーニングを受けているNPが、周術期の内科的管理を中心的に担って外科医の不得意分野を補完していることであり、さらには外科医よりも患者さんや家族、コメディカルとの距離が近いことから、外科医が拾いきれない情報を集めて診療に生かすといったことです。患者さんにとって身近な頼りになる存在です。Frailな高齢者が対象でかつ多職種が関

わるTAVIではその真価を發揮します。TAVI患者はNPが受け持ち（主治医のような立場）となり、社会的背景を含めた術前評価からハートチーム内外の調整、手技の助手、術後管理、退院調整までを担い、診療のできるコーディネーターとしての役割を果たしています。

一見順風満帆のような当科のNPシステムですが、実はNPの立場や役割は紆余曲折があり、今でも完成型とは言えません。ただルーチンワークをやるだけではNPのモチベーションは維持できないため、業務的にも待遇的にも心外NPがステップアップできる道筋を作っていくということが今後の大きな課題です。

田端 実



診療看護師

診療看護師に求められるもの

新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるたび、今年はどうな患者さん達に出会えるのだろうか、今年こそ診療看護師（以下NP）の位置づけは明確になるだろうかといった期待と不安で一杯になります。

東京ベイ心臓血管外科のNPの役割は多彩です。周術期管理を中心とした日常診療の補完はもちろんですが、最近ではむしろ複合的な問題を抱える高齢者の増加と治療の選択肢が広がる環境の中、多角的に患者をとらえ情報を集約すること、多職種で構成されたハートチームを調整することに重要性が増しているような気がします。そのためNPには、適切な情報収集と判断能力、スピードが必要な際の状況対応能力とフットワークの軽さ、そして何よりもチームが

ら信頼される存在でいるということが求められると考えます。なかなか数字に表すことができない役割だけに、時折もどかしく感じることもあります。これぞ心臓血管外科NPの真骨頂と言わしめるくらいに築きあげることが私の課題です。

10年後、NPは心臓血管外科の診療に欠かせない存在になっているものと予測します。その時までNPが活き活きと働けるシステムや教育体制を構築し、次世代のNPの育成を行っていくことが、いち早くNPを取り入れた当科の役目と考えています。

重富 杏子



言に対しては、担当理事が意見をふまえて回答する。

(12) 研究・教育委員会

審議事項

1) NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の公募への応募

「大動脈食道瘻に対する外科治療」が三領域にまたがる課題であり、本研究募集内容に合致する。どこまでデータが取れるのか申請してみないと議論ができない。NCDデータに項目を追加するのであれば解析費用が必要かもしれない。

2) JATS-NCD研究支援事業

会員に胸部外科三領域の研究課題提案を募り、本会が推薦する形でNCDデータの利用を可能とすることで全国規模の網羅的データを用いた研究を学会支援の形で推薦する試みで、研究費に関しては各申請者が科研費など独自に用意し、学会からは支援しない。各分野から一課題ずつ採択予定であるので、3分野の優秀課題を採択する作業は必要である。上記2点について、NCD事務局の方と相談予定であり、支障がなければ前向きに検討する。

3) 呼吸器外科サマースクール欠席者への返金対応

「平成30年7月豪雨」のため、欠席された方への返金対応を行う。剰余金から支出するが、高額な場合は折半との日本呼吸器外科学会からの申し入れにつき、承認された。

報告事項

1) 日本胸部外科学会研究助成 (JATS Research Project Award)

8月下旬に予定されている入金で目標金額に達成する見込みであるが、研究資金のため、受賞者発表に先立ち、9月初旬にも振込み予定である。来年度は2年目にあたり資金集めは、第71回学術集會中から開始し、課題募集は学術終了時より開始予定とする。なお、基金ではなくバナー広告であれば提出可能との企業もあり、広

報委員会が策定した広告規定で広告を募集しての助成資金確保も視野に入れる。

2) JATS Academy

10月1日ホームページオープンを予定で、掲載予定の各コンテンツの内容や進捗状況は、研究助成、各専門医（指導医）制度関連、教育カレンダー、教育コース・eラーニング・PGCテキストアーカイブ、手術ビデオ・ライブラリーである。

(13) 広報 (Homepage・Internet) 委員会

ホームページのバナー広告規定を作成し、原則として医療に関連した広告を集めることが提案され、承認された。

(14) 総務・渉外委員会

理事会ニュース作成、勤務医師賠償責任保険加入状況、本会関連各種試験結果等が報告された。なお、災害時のネットワーク作成は委員会を開催して検討予定である。

(15) 定款改訂委員会

1) 定款改訂

理事数を20名から26名に増員、広告の方法の改正による改訂の2点を変更した。

軽微な変更（役員の定数）は届出だけで済み、総会で承認されたら時点で発効する。

2) 定款施行細則

理事定数を26名と増員したため、理事数を22名、各専門分野理事の最小数は3名、分野会長及び次期分野会長の新設、評議員選挙日程の変更案が提案され、承認された。

(16) 臓器移植委員会

2018年の心臓・肺移植状況、肺移植関連学会協議会、心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会について報告された。

(17) 処遇改善・男女共同参画委員会

処遇改善に対するアンケートを会員対象に行っているが、締め切りを9月7日まで延期した。

(18) チーム医療推進委員会

第71回定期学術集會のチーム医療推進委員会セッション「胸部外科領域のチーム医療：地方

での積極的取り組み」、合同シンポジウム、チーム医療に関するアンケート調査について報告された。

(19) 国際委員会

JATSフェロシップ（心2、肺2、食1）とJATS/AATS Foundation Fellowship（心2名）、フェロシップ基金（2017収支報告書案及び2018年収支予算書案が承認）、ホームカミングセッション、第71回定期学術集會トラベルグラントについて報告された。

(20) COI委員会

外科臨床研究の利益相反に関する指針に基づく、役員及び当該委員会委員の利益相反自己申告書を76名から提出いただいた。学会事務局において、理事長を管理者とし、個人情報とし

て厳重に保管・管理している。

(21) 地方会のあり方委員会

地方会助成方法最終案（本年評議員会に諮問）が報告された。会費値上げは2,000円にとどめる、事業費総額を2,400万円と設定、2,400万円の内訳、事業のスケジュール案が報告された。

(22) J-MACS委員会

第3回及び第4回委員会における検討事項及び決定事項が報告された。

2. その他

(1) 日本医学会連合会費納入の件

8月20日現在の会員数で算出した会費を振り込むことが承認された。

日本胸部外科学会 第2回臨時理事会 2018年10月3日（水）14:00～15:30

1. 通常評議員会・通常総会の議事進行について

1) 第71回通常評議員会進行

議案の進行順序を、庶務報告・役員選任・協議事項・報告事項とすることが承認された。協議事項の総合将来計画委員会の2点、法人格の変更及び学術集會開催形態の変更は、投票用紙を用意した。2件ともパブリックコメントを求め、261名から意見があった。法人格の変更は、賛成77.3%、保留18.8%、反対3.8%であり、分野別会長制度の導入は、賛成58.1%、保留10%、反対31.9%であった。

2. 次期分野会長承認の件

2020年（第73回）の学術集會の分野会長として肺分野に兵庫医科大学の長谷川誠紀評議員、食道分野に徳島大学の丹黒章評議員が推薦され、

本理事会としては承認された。

3. 財務委員会

本会事務職員賃金規定の一部改定が本理事会で承認された。

4. その他

(1) 先天性心疾患の移行医療に関する横断的検討会委員推薦

新たに2018年度から2019年度において、日本循環器学会のJ-ROADで結果報告されたデータをまとめ、厚生労働省に働きかけることを目的としている。坂本喜三郎理事に継続して委員をお願いしたい旨の連絡があり、本会としても承認した。

(2) 日本がん治療認定医機構会議録

関連学会連絡委員会の会議録が報告された。

Ever Upward Together

第49回日本心臓血管外科学会学術総会開催にあたって

伝統と格式のある日本心臓血管外科学会学術総会を岡山の地で主催させていただくことを大変な名誉と感じており、会員の皆様に心より御礼申し上げます。本学術総会が岡山の地で開催されますのは、第20回（平成2年）が恩師寺本滋先生（岡山大学名誉教授）によって開催されて以来、29年ぶりとなります。

第49回学術総会は、平成31年2月11日（月・祝）から13日（水）まで、岡山コンベンションセンターを主会場として開催しますが、隣接する場所にスカイウォークで繋がれて新設された岡山県医師会館を使用できるようになり、ANAクラウンプラザホテル岡山、岡山シティミュージアムと併せて、岡山駅運動公園口（西口）側だけで3日間の学術総会を開催できることとなりました。新幹線駅と直結し、空港からもシャトルバス30分で会場前に到着しますので、まさしく日本一便利なコンベンションでの開催と自負しております。なお、前日のプログラムは岡山駅後楽園口（東口）側のホテルグランヴィア岡山で開催させていただきます。学会の資金集めには各方面からご協力

を頂きましたが、これらの集まってきた資金の用途として、①ポスター発表を行う若手の利便性、②チームとして心臓血管外科診療を支えてくださっているメディカルスタッフのためのセッションを設けることに使いたいと考えました。以前よりポスター発表を行ってくださる先生方が長い筒を抱えて移動されているのを拝見して、大変だろうなと思っておりました。それで、今回は指定日までにデータを送ってくだされば、無料でポスターを印刷して会場に貼っておくというサービスを行います。当日は手ぶらで発表にだけお越しいただければ良いようにしました。もちろん発表後にポスターをお持ち帰りいただくことも可能です。

特別講演としては日本将棋連盟前会長の谷川浩司九段にお越しいただきます。ここ数年は将棋ブームが続いておりますが、日々手術室で患者さんのために闘っておられる先生方に向けて、勝負の世界の話をしていただこうと思っています。

また、新しい術式の開発などで世界的に日本人の業績と認められているものがいくつか挙げられます。そのなかで、先

種本 和雄

川崎医科大学心臓血管外科学教授

天性心疾患を中心に日本人の心臓血管外科医が知っておくべき術式について、「先人に学ぶ手術」として開発者ご自身または開発者に直接の薫陶を受けてこられた先生方にお話しいただけます。術式の紹介だけでなく、そのような手術の開発に至った経緯、および開発秘話・苦労話などをお聞かせいただけます。世界に冠たる業績を残すためにどのようなことをされてきたのか、若手だけでなくすべての会員に大いに役立つセッションとなると期待しています。

2月は岡山も年間で一番寒い時期ではありますが、岡山では雪が降ることはほとんどありません。後楽園、瀬戸大橋、鷲羽山、倉敷美観地区など、冬もお楽しみいただける観光地がたくさんあります。是非とも皆様で岡山にお出かけいただき、学術総



会と冬の岡山をお楽しみいただければと思っています。皆様をおもてなしすることを楽しみにしております。

種本 和雄

所属：川崎医科大学心臓血管外科学教授

経歴：

- 1982年 岡山大学医学部卒業
- 1990年 国立岩国病院心臓血管外科医長
- 2000年 川崎医科大学外科学（胸部心臓血管）教授
- 2006年 University of Oxford, Green College, Visiting fellow
- 2007年 川崎医科大学附属病院副院長兼務
- 2010年 教室改組により川崎医科大学心臓血管外科学教授

趣味：旅行、スポーツ、ワイン

好きな言葉：憂き事の尚この上も積もれかし、限りある身の力試さん



第72回日本胸部外科学会定期学術集会

胸部外科の伝統とイノベーション

会期：2019年10月30日（水）～11月2日（土）

会場：国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

会長：伊達 洋至（京都大学 呼吸器外科学 教授）

URL：http://www.congre.co.jp/jats2019/

演題募集期間（予定）

2019年2月27日（水）～4月17日（水）

※公募演題詳細等はホームページで随時更新してまいりますのでご確認ください

主催事務局：京都大学 呼吸器外科学

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
Tel：075-751-4975 Fax：075-751-4974

運営事務局：株式会社コングレ 大阪本社

〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-1-13
Tel：06-6229-2555 Fax：06-6229-2556
E-mail：jats2019@congre.co.jp



お知らせ

日本胸部外科学会 オリジナルネクタイ販売

JATSオリジナルネクタイは、29年前、第43回末代会長がお作りになりましたが、第68回大会会長がデザインを刷新し作成されました。

この度、限定300本を販売しております。



深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。会員の皆様、学術集会参加の際などに是非お一ついかがでしょうか！

限定
300本

ご購入手続き 1本…¥3,600（ネクタイ…¥3,240（税込）+レターパック…¥360）

なお、複数本ご購入の場合は、送料変更の為、ご入金前に一度事務局にご連絡願います。

振込額：1本 ¥3,600（ネクタイ…¥3,240（税込）+レターパック…¥360）

口座：みずほ銀行 飯田橋支店
普通預金 2288186

名義：特定非営利活動法人日本胸部外科学会
（トクヒ）ニホンキョウブゲカガクカイ
※振込人名を必ず入力

宛先：jats-adm@umin.ac.jp（ネクタイ販売窓口）

件名：JATSネクタイ購入希望・入金完了

本文：会員番号 T

氏名 ※必ず明記

発送先 ※学会登録の住所以外に送付する場合のみ記載

発送は『代金のお振込み』と『事務局へのメール』が共に確認できてからになります。

Step1
代金のお振込み

Step2
事務局へメール

編集後記

1面の理事長挨拶に詳しく書かれておりますが、昨年の本学会評議員会、総会にて二つの大きな議案が審議、可決されました。一つは、本学会の一般社団法人化であり、もう一つは学術集会形態の変更すなわち分野別会長制度の導入です。一般社団法人化は、これまでのNPO法人と並立させながら、数年間で移行を完了する予定であり、定款変更など規則変更の迅速化や、NPO法人では難しかった営利事業への取り組みなどが可能となります。また、分野別会長制度は、心臓、呼吸器、食道の3分野が別々の方向を向いている現状に即した改革であり、特に、呼吸器、食道領域における本学会のプレゼンスの改善が将来的に本学会のプラスになることを確信して理事会から提案したものでした。分野別会長制度は2020

年名古屋での学術集会から導入されますが、初めの数年は従来通りの会長を置いて開始します。分野別会長制度への完全移行、すなわち会長の廃止は再度、評議員会の審議に付される予定です。分野別会長制度については、これから数年間にわたり大事に育てることが重要と考えています。

2面、優秀論文賞では5人の若手が受賞されました。これはGTCSに発表された原著論文の中から厳正な審査の上、選ばれたものです。GTCSはご存知のようにIFを取得することができたことから、今後はさらに優秀な論文が集まることが予想され、本学会の学術面での活動がさらに活発になることが期待できると思います。 広報委員会委員長 千田 雅之

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.47
2019年1月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会

〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F

TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560

URL◎http://www.jpats.org/

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会

E-mail◎jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎